九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Research on cognition of interior by specialists and non-specialists

森永, 智年
Graduate School of Design, Kyushu University

https://doi.org/10.15017/21746

出版情報：九州大学, 2011, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

論　文　要　旨

区　分	甲	氏　名	森永　智年
論文題目	専門家と非専門家のインテリア認知に関する研究		

論　文　内　容　の　要　旨

住宅の設計において、クライアントと設計者が一緒に模索しながら住環境を創り上げて行くには、両者の間にある感覚や習慣の違いを十分認識していないと相互に不満が残る結果になりやすいことが指摘されている。特に、インテリアについては、クライアントが身近に感じている生活環境であり、自らの好みとその方法についても、様々なメディアからの情報と経験より、多様な知識を持ち合せている。従って、打ち合せではクライアントが自由に意見を述べる機会が多くなり、それは本来設計者が担うべき職能領域にまで及ぶこともある。設計者とクライアントのインテリア認知の違いについて明らかにした。インテリアに対する設計者とクライアントの認知特性を解明することが設計を行う際に生じる不満回避に役立つと共に、設計者の認知特性の解明が専門教育への進展に貢献することが考えられる。本研究では、インテリアの提案ツールであるインテリア・プレゼンボートに着目することで、提案のインテリアが期待したものかどうか、その実現方法を確認するときの着眼点から認知特性を探るものである。被験者の役割の違いによる認知特性をその属性別の評価構造の特徴の違いとして示した。経験・知識の差による認知特性は、被験者の類型化による評価構造の特徴の違いを評価構造の「分化」「統合」の程度により示すことができた。また、イメージコラージュを用いて、専門性と知識の関係を専門性の形成過程による知識構造の変化として示した。これにより、専門家と非専門家及び専門性を形成している途中段階にある学生を対象にしてインテリア認知構造と知識構造の違いについて認知心理学の視点より明らかにした。この論文は、３つの部門から構成されている。

一つ目は、「インテリア・プレゼンボードおける専門家と非専門家の見方の違い」について論じたものである。専門家と非専門家の評価構造の違いからは、専門家が顧客の好みを把握し、ニーズに合った説得力のある提案と顧客の信頼を得ようと努めている姿勢を確認することができた。非専門家では、生活経験と関心の差が生活視点に立脚した納得と安心のいく判断基準になっていて、そのなかには設計作業に参加したい人がいることが分かった。

二つ目は、「インテリア・プレゼンボードの評価を通した評価構造と個人属性の類型化」について論じたものである。評価グリッド法を用いてインテリア空間の「期待の実現方法」に関する評価構造をその評価項目の類似性により類型化することができた。そして、その類型化された属性とその評価構造の特徴より、類型別に価値目標を把握ができることを示した。また、それぞれの類型別の評価構造は、それぞれの環境に対する感覚的理解とその背景にある経験と知識に裏付けられた客観的かつ具体的な判断を示していることが認められた。そして、類型別に評価構造の「分化」「統合」の特徴の違いを示し、評価構造の「進化と変容」を学生の学年の違いと専門家の属性より、専門的知識と経験を身に付ける過程に沿って段階別に把握した。

三つ目は、「インテリアの専門家と専門性を形成している段階にある学生の知識構造の違い」について論じたものである。その内容は Paivio の二重符号化論を基に、イメージコラージュを用いて、専門家と初心者を比較することで、専門性の形成過程の知識構造の変化

について明らかにすることができた。